

授業概要

アメリカの中央銀行FRBや欧州中央銀行（ECB）が大規模な金融緩和を終了しつつあるのに、日本銀行は、異次元の金融緩和を続けています。おかげで、円安基調に転換し、長かったデフレ不況が終息しつつあるといわれています。しかし、その弊害も深刻です。

2016年には、アメリカでトランプ氏が大統領選挙で勝利しました。トランプ政権は、アメリカファーストと保護主義をかかげていますが、自国中心主義を世界中から批判されています。

世界経済が激動するなかで、日本でおこなわれてきたアベノミクスといわれるものがはたして有効なのか、ということについて議論します。

本演習では、こうした世界と日本経済の実態、金融・証券市場の仕組みを理解できるように指導します。

授業計画

| | | | |
|--------|---------------|--------|----------------|
| 第 1 回 | 演習の概要 | 第 16 回 | 戦前の日本経済の特徴 |
| 第 2 回 | 戦後の冷戦体制 | 第 17 回 | 日本の高度経済成長 |
| 第 3 回 | 冷戦体制の崩壊 | 第 18 回 | 高度経済成長の終焉 |
| 第 4 回 | グローバル化の進展 | 第 19 回 | 資産バブル経済の生成 |
| 第 5 回 | なぜトランプ氏が当選したか | 第 20 回 | 資産バブル経済の崩壊 |
| 第 6 回 | トランプ政権による混乱 | 第 21 回 | 平成大不況への突入 |
| 第 7 回 | トランプ政権の何が問題か | 第 22 回 | 金融ビッグバンとは |
| 第 8 回 | トランプ政権の行方 | 第 23 回 | 証券ビッグバン |
| 第 9 回 | ヨーロッパ経済の歴史と現状 | 第 24 回 | 日本銀行の異次元緩和 |
| 第 10 回 | ヨーロッパでの極右の台頭 | 第 25 回 | 日本銀行のマイナス金利政策 |
| 第 11 回 | アメリカ中央銀行の金融政策 | 第 26 回 | アベノミクスの第一ステージ |
| 第 12 回 | 欧州中央銀行の金融政策 | 第 27 回 | アベノミクスの第二ステージ |
| 第 13 回 | 対テロ戦争とは | 第 28 回 | 日本経済のあり方 |
| 第 14 回 | 新たな冷戦体制 | 第 29 回 | 日本の金融・証券市場のあり方 |
| 第 15 回 | 保護主義が強まるか | 第 30 回 | 演習のまとめ |

到達目標

今の世界が、いったいどうなっているか、日本は、世界のなかでどのような位置にあるか、日本の経済はどのような方向に進むのがいいか、さらに、金融・証券市場とはなにか、ということを理解してもらうことが到達目標です。

履修上の注意

世界と日本の経済、金融・証券市場の動きを取り上げますので、日々の新聞を読んでおいてください。銀行や証券会社や保険会社など金融機関への就職を考えている学生は大歓迎です。

予習復習

取り上げるテーマについて事前に予習し、終わったら必ず復習をしてください。

評価方法

演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

テキスト

テキストはとくに使用しません。
適宜、新聞記事や資料を配布します。

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

授業計画

| | | | |
|--------|------------|--------|----------------|
| 第 1 回 | 会計学の意義 | 第 16 回 | 純資産の測定と認識 1 |
| 第 2 回 | 複式簿記の原理 1 | 第 17 回 | 純資産の測定と認識 2 |
| 第 3 回 | 複式簿記の原理 2 | 第 18 回 | 財務諸表の作成と解説 1 |
| 第 4 回 | 財務諸表の読み方 1 | 第 19 回 | 財務諸表の作成と解説 2 |
| 第 5 回 | 財務諸表の読み方 2 | 第 20 回 | 財務諸表の作成と解説 3 |
| 第 6 回 | 資産の測定と認識 1 | 第 21 回 | レジュメ作成と発表の仕方 |
| 第 7 回 | 資産の測定と認識 2 | 第 22 回 | 各自のテーマの報告と討論 1 |
| 第 8 回 | 資産の測定と認識 3 | 第 23 回 | 各自のテーマの報告と討論 2 |
| 第 9 回 | 負債の測定と認識 1 | 第 24 回 | 各自のテーマの報告と討論 3 |
| 第 10 回 | 負債の測定と認識 2 | 第 25 回 | 各自のテーマの報告と討論 4 |
| 第 11 回 | 収益の測定と認識 1 | 第 26 回 | 各自のテーマの報告と討論 5 |
| 第 12 回 | 収益の測定と認識 2 | 第 27 回 | 各自のテーマの報告と討論 6 |
| 第 13 回 | 費用の測定と認識 1 | 第 28 回 | 各自のテーマの報告と討論 7 |
| 第 14 回 | 費用の測定と認識 2 | 第 29 回 | 各自のテーマの報告と討論 8 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ | 第 30 回 | 秋期のまとめ |

到達目標

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に達すること。
- ・発表レジュメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『会計学入門』
- ・著者名：桜井 久勝
- ・出版社名：日本経済新聞社
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

グローバル化の進展により、今日では、地球がより小さく感じられるようになってきました。様々な分野において、日本国内のみではなく、諸外国も含め、世界レベルで互いに関連し合う社会となってきたと言えます。ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ等が、地球規模で行きかう本格的な時代の到来となった。各ビジネスにおいても、世界に関する知識が不可欠となってきています。本演習では、世界を視野に入れた重要なキーワードについて理解を深め、今後の勉強や論文作成、就職等に役立つ基礎的知識を習得すること目的とします。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------|
| 第 1 回 | 世界地図をしてみるー日本の位置と大きさは？ | 第 16 回 | 政治 |
| 第 2 回 | 人口分布、高齢化 | 第 17 回 | 経済 |
| 第 3 回 | 健康指標（平均寿命、健康寿命等） | 第 18 回 | 産業 |
| 第 4 回 | 病気の特徴ー生活習慣病、感染症等 | 第 19 回 | 教育 |
| 第 5 回 | 世界の保健・医療システムー病院、診療所等 | 第 20 回 | 文化 |
| 第 6 回 | 宗教・人種 | 第 21 回 | アジア |
| 第 7 回 | 貧困、格差社会 | 第 22 回 | オセアニア |
| 第 8 回 | ジェンダー | 第 23 回 | ヨーロッパ |
| 第 9 回 | インバウンド、アウトバウンド | 第 24 回 | 北欧 |
| 第 10 回 | ツーリズム | 第 25 回 | ロシア |
| 第 11 回 | 自然環境、気候 | 第 26 回 | 北米 |
| 第 12 回 | 栄養、食料 | 第 27 回 | 南米 |
| 第 13 回 | 運動、スポーツ | 第 28 回 | アフリカ |
| 第 14 回 | 歴史 | 第 29 回 | 北極・南極 |
| 第 15 回 | エネルギー | 第 30 回 | まとめ |

到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・グローバルな視点で物事を考えることができる。
- ・各課題に対し、深く考察することができる。
- ・世界各国の実情に関する理解を深める。

履修上の注意

好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

自身の担当部分についてのレジュメの作成に関する予習はしっかりと行い、他の仲間の発表内容については復習をする習慣を身に付けて下さい。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

- ・教科書名：『今がわかる 時代がわかる 2018年版 世界地図』
- ・出版社名：成美堂出版

授業概要

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、その際にゼミ生の興味関心を整理し、選択肢となる企業数を広げることを目的とする。そこで、2年次の基礎演習では業界の全体像を概観し、ゼミ生には何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う演習を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

なお、下記の授業計画は2018年度の内容と予定を参考までに示すものであり、2019年度は受講生により業界や企業は変わることになる。

授業計画

| | | | |
|------|----------------------|------|-------------------|
| 第1回 | 業界分析の必要性 | 第16回 | 夏季休業中の課題のプレゼン |
| 第2回 | 設定した課題レポートの報告① | 第17回 | ①キャノン |
| 第3回 | 設定した課題レポートの報告② | 第18回 | ②リコー・ジャパン |
| 第4回 | ①バンダイ・ナムコ | 第19回 | ③富士ゼロックス |
| 第5回 | ②コナミホールディングス | 第20回 | 事務用機器業界のまとめ |
| 第6回 | ③カプコン | 第21回 | ①サントリー食品インターナショナル |
| 第7回 | ④スクウェア・エニックスホールディングス | 第22回 | ②コカコーラ・ボトラーズ・ジャパン |
| 第8回 | ゲームソフト等業界のまとめ | 第23回 | ③伊藤園 |
| 第9回 | ①カルビー | 第24回 | 飲料業界のまとめ |
| 第10回 | ②不二家 | 第25回 | (予定) ①豊田自動織機 |
| 第11回 | ③森永製菓 | 第26回 | ②ケーヒン |
| 第12回 | ④湖池屋 | 第27回 | ③カルソニックカンセイ |
| 第13回 | お菓子業界のまとめ | 第28回 | ①東京電力 |
| 第14回 | キャリアについて考える① | 第29回 | ②東京瓦斯 |
| 第15回 | 夏季休業中の課題について | 第30回 | キャリアについて考える② |

また、回数や内容は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・ 質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
- ・ 調べた業界の全体像を知るとともに、就職先として希望する業界や企業を発見する。

履修上の注意

- ・ 登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ 履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するエクステンションセンター主催の講座の受講）などを積極的に指示する。

予習復習

- ・ 予習：報告レジュメの作成。
- ・ 復習：課題レポートの作成。

評価方法

- ・ 演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ、および提出された課題といった平常点を重視して評価する。

テキスト

- ・ 教科書名：『会社四季報 業界地図』
- ・ 出版社名：東洋経済新報社

授業概要

基礎演習を卒論作成のために必要な学習方法を学ぶ準備段階として考える。具体的には、

- ①専門的な本を読んで、日本経済の抱えている問題について、学習する。
- ②自分で問題を発見し、調べ、結論を導く方法を習得する。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 第 1 回 | 授業のガイダンス | 第 16 回 | 研究テーマの選定・資料の検索 |
| 第 2 回 | テキストの輪読と感想文の作成 | 第 17 回 | 研究テーマの選定・資料の検索 |
| 第 3 回 | テキストの輪読と感想文の作成 | 第 18 回 | 研究テーマの決定 |
| 第 4 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 19 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 5 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 20 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 6 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 21 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 7 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 22 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 8 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 23 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 9 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 24 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 10 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 25 回 | 研究テーマについての資料の報告 |
| 第 11 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 26 回 | 研究報告 |
| 第 12 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 27 回 | 研究報告 |
| 第 13 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 28 回 | 研究報告 |
| 第 14 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 29 回 | 研究報告 |
| 第 15 回 | 各自テキストに関する報告と討論 | 第 30 回 | 研究報告 |

到達目標

研究報告論文の作成の仕方を習得すること。

履修上の注意

指示に従って調査、研究を行うこと。

予習・復習

報告の準備を必ずすること。

評価方法

ゼミ中の発言と報告内容によって評価する。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

日本経済の発展を支えている日本の企業は、厳しい生き残り競争を繰り広げている。時には、思いもかけない大企業が破綻するなど、規模が大きければ生き残れるという保証はどこにもない。そうした世界的な競争の激化の中で、日本企業は時代の変化に対応すべく、日々経営革新に取り組んでいる。

本演習では、皆さんの働く場として想定されている企業の実態を学ぶことを通じて、日本の経済社会のあるべき姿を見通す能力を身につけることを目的としている。

授業計画

| | | | |
|--------|---------------|--------|---------------|
| 第 1 回 | 演習の概要 | 第 16 回 | 後期演習の概要 |
| 第 2 回 | 企業とは何か | 第 17 回 | グローバル化と大企業① |
| 第 3 回 | 企業の役割は何か | 第 18 回 | グローバル化と大企業② |
| 第 4 回 | 企業で働くということは① | 第 19 回 | 上記についての発表と討議 |
| 第 5 回 | 企業で働くということは② | 第 20 回 | グローバル化と中小企業① |
| 第 6 回 | 上記についての討議 | 第 21 回 | グローバル化と中小企業② |
| 第 7 回 | 日本経済の中での日本企業① | 第 22 回 | 上記についての発表と討議 |
| 第 8 回 | 日本経済の中での日本企業② | 第 23 回 | 働く場としての日本企業① |
| 第 9 回 | 上記についての討議 | 第 24 回 | 働く場としての日本企業② |
| 第 10 回 | 日本の中小企業の役割① | 第 25 回 | 上記についての発表と討議 |
| 第 11 回 | 日本の中小企業の役割② | 第 26 回 | 日本企業のあるべき姿とは① |
| 第 12 回 | 上記についての討議 | 第 27 回 | 日本企業のあるべき姿とは② |
| 第 13 回 | ゼミ生の関心事の討議① | 第 28 回 | 上記についての発表と討議 |
| 第 14 回 | ゼミ生の関心事の討議② | 第 29 回 | 企業についての討議 |
| 第 15 回 | 前期のまとめ | 第 30 回 | 企業についての討議 |

なお、上記の内容は、ゼミ生の人数、関心事等によって、変更することがある。

到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容を整理し、発表、議論できる能力を身につける。
特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習・復習

- ・日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- ・各テーマごとに、具体的にレポート作成を指示する。

評価方法

- ・授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献については、必要に応じて指示する。

授業概要

「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、本田宗一郎、石坂泰三、中内功などの経営者の経営思想（経営観）に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、考え、議論することをおして、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高め、前向きな気持ちになるヒントを見つけることが目的である。

授業計画

| | | | |
|------|-----------------------------------|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明) | 第16回 | 春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する |
| 第2回 | 世間の「常識」を覆した企業家たち(総論Ⅰ) | 第17回 | 会社とは何か、なぜ働くのか(総論Ⅰ) |
| 第3回 | 逆境を乗り越えた苦勞人(総論Ⅱ) | 第18回 | 必ず頭角を現す経営者の条件(総論Ⅱ) |
| 第4回 | 大賀典雄(ソニー) | 第19回 | 土光敏夫(石川島播磨重工業) |
| 第5回 | 鈴木敏文(セブン&アイ・ホールディングス) | 第20回 | 賀来龍三郎(キャノン) |
| 第6回 | 本田宗一郎(ホンダ) | 第21回 | 八尋俊邦(三井物産) |
| 第7回 | 松下幸之助(パナソニック) | 第22回 | 石坂泰三(東芝) |
| 第8回 | 伊藤雅俊(イトーヨーカ堂) | 第23回 | 大谷米太郎(大谷重工業) |
| 第9回 | 市村清(リコー) | 第24回 | 樋口廣太郎(アサヒビール) |
| 第10回 | 立石一真(オムロン) | 第25回 | 中内功(ダイエー) |
| 第11回 | 宮崎輝(旭化成) | 第26回 | 吉田忠雄(YKK) |
| 第12回 | 安藤百福(日清食品) | 第27回 | 補充内容:IT業界の新世代経営者——ビル・ゲイツ(マイクロソフト)、スティーブ・ジョブズ(アップル)、ジェフ・ベソス(アマゾン)、セルゲイ・ブリン(グーグル)、孫正義(ソフトバンク)、三木谷浩史(楽天)などから選択 |
| 第13回 | 議論:以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。 | 第28回 | 同上、つづき |
| 第14回 | 同上、つづき | 第29回 | 議論:改めて考える——「会社とは何か、なぜ働くのか」 |
| 第15回 | 春期の内容のまとめ | 第30回 | 秋期の内容のまとめ |

到達目標

- 1、経営史の基礎知識を習得すること。
- 2、自分の考えや意見を正しくはっきりと他人に伝える力を身につけること。
- 3、著名な経営者・創業者たちの人生を振り返ることによって、自分の人生目標を考えること。

履修上の注意

- 1、報告者は分担内容のほか、テキスト以外の内容や統計データの補充が望ましい。
- 2、授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる。

予習・復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読してください。

評価方法

出席はもちろんのこと、授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況および報告内容、授業態度、期末試験を総合して評価する。

テキスト

- ・教科書名:『私の履歴書 名語録』
- ・著者名:石田 修大
- ・出版社名:三笠書房
- ・出版年:2008年

授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なのでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが。しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

授業計画

| | | | |
|--------|--------------|--------|----------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション | 第 17 回 | 回帰分析の方法 1 |
| 第 2 回 | コンピューターの機能 1 | 第 18 回 | 回帰分析の方法 2 |
| 第 3 回 | コンピューターの機能 2 | 第 19 回 | 回帰分析の方法 3 |
| 第 4 回 | EXCELの機能 1 | 第 20 回 | 回帰分析の方法 4 |
| 第 5 回 | EXCELの機能 2 | 第 21 回 | 回帰分析の方法 5 |
| 第 6 回 | EXCELの機能 3 | 第 22 回 | 回帰分析によるモデル分析 1 |
| 第 7 回 | 表の作成と計算 1 | 第 23 回 | 回帰分析によるモデル分析 2 |
| 第 8 回 | 表の作成と計算 2 | 第 24 回 | 回帰分析によるモデル分析 3 |
| 第 9 回 | 表の作成と計算 3 | 第 25 回 | 回帰分析によるモデル分析 4 |
| 第 10 回 | 表の作成と計算 4 | 第 26 回 | 回帰分析によるモデル分析 5 |
| 第 11 回 | 表の作成と計算 5 | 第 27 回 | 回帰分析による予測 1 |
| 第 12 回 | 適切なグラフの作成 1 | 第 28 回 | 回帰分析による予測 2 |
| 第 13 回 | 適切なグラフの作成 2 | 第 29 回 | 回帰分析による予測 3 |
| 第 14 回 | 適切なグラフの作成 3 | 第 30 回 | 回帰分析による予測 4 |
| 第 15 回 | 適切なグラフの作成 4 | 第 31 回 | まとめ（授業内容の確認） |
| 第 16 回 | 中間テスト | 第 32 回 | 期末テスト |

到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

企業経営の事例に基づき経営者が語る経営・戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

| | | | |
|--------|-------------------|--------|----------------|
| 第 1 回 | 概要 | 第 16 回 | グローバル経営－三菱ケミカル |
| 第 2 回 | 業績回復－カルビー | 第 17 回 | プレゼンテーション④ |
| 第 3 回 | 業績回復－星野リゾート | 第 18 回 | 人材育成－ローソン |
| 第 4 回 | 業績回復－日本マクドナルド | 第 19 回 | 人材育成－資生堂 |
| 第 5 回 | プレゼンテーション① | 第 20 回 | 人材育成－京都銀行 |
| 第 6 回 | IT の活用－サイバーエージェント | 第 21 回 | プレゼンテーション⑤ |
| 第 7 回 | IT の活用－ネットイヤーグループ | 第 22 回 | モノづくり－日本電産 |
| 第 8 回 | IT の活用－松井証券 | 第 23 回 | モノづくり－花王 |
| 第 9 回 | プレゼンテーション② | 第 24 回 | モノづくり－テルモ |
| 第 10 回 | 新市場開拓－オイシックス | 第 25 回 | プレゼンテーション⑥ |
| 第 11 回 | 新市場開拓－エイチ・アイ・エス | 第 26 回 | 地方発企業－サラダボウル |
| 第 12 回 | 新市場開拓－ジャパネットたかた | 第 27 回 | 地方発企業－カイハラ |
| 第 13 回 | プレゼンテーション③ | 第 28 回 | 地方発企業－東北電子産業 |
| 第 14 回 | グローバル経営－武田薬品工業 | 第 29 回 | 地方発企業－大垣共立銀行 |
| 第 15 回 | グローバル経営－ユニ・チャーム | 第 30 回 | プレゼンテーション⑦ |

到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。

履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・多くの文献を読みこなす。
- ・遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。

復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

読解力・文章力・発言力の向上により評価する。

テキスト

- ・教科書名：『経営者が語る戦略教室』
- ・著者名：日本経済新聞社
- ・出版社名：日経ビジネス文庫

授業概要

授業内容は中級レベルの工業簿記と商業簿記を学習します。日商簿記3級レベルを十分に理解していることが前提です。春期は主に工業簿記の論点学習を行います。内容は費目別、部門別、総合原価、標準原価、直接原価計算をテキストに沿ってインプット学習をします。また秋期は商業簿記が中心です。株式会社会計、剰余金、本支店会計と連結会計など実践問題を解答します。日商簿記検定試験の11月と2月に沿った授業進度で行います。学習目標は、日商簿記検定2級合格水準です。

授業計画

| | | | |
|------|--------------------|------|-----------------|
| 第1回 | 工業簿記の体系的学習の説明 | 第16回 | ①銀行勘定調整表の作成 |
| 第2回 | ①費目別計算：材料費 | 第17回 | ②有価証券、公社債 |
| 第3回 | ②費目別計算：労務費・経費 | 第18回 | ③有形固定資産の処理 |
| 第4回 | ③個別原価計算：勘定連絡図 | 第19回 | ④外貨建換算会計 |
| 第5回 | ④個別原価計算：製造間接費の処理 | 第20回 | ⑤リース会計の処理 |
| 第6回 | ⑤部門別個別原価計算：集計と配賦 | 第21回 | ⑥株式発行、剰余金 |
| 第7回 | ⑥部門別個別原価計算：製造部門費 | 第22回 | ⑦決算手続 |
| 第8回 | 中間試験 | 第23回 | 中間試験 |
| 第9回 | ⑦総合原価計算：月末仕掛品の処理 | 第24回 | ①課税所得と税効果会計 |
| 第10回 | ⑧総合原価計算：仕損の処理 | 第25回 | ②本支店会計 |
| 第11回 | ⑨工程別／組別／等級別総合原価計算 | 第26回 | ③合併と事業譲渡 |
| 第12回 | ⑩標準原価計算：原価標準と標準原価 | 第27回 | ④連結会計1 資本連結 |
| 第13回 | ⑪標準原価計算：差異分析 | 第28回 | ⑤連結会計2 支配獲得後の連結 |
| 第14回 | ⑫直接原価計算：全部原価計算との違い | 第29回 | ⑥連結会計3 成果連結 |
| 第15回 | ⑬直接原価計算：CVP分析など | 第30回 | ⑦製造業会計 |
| | 春期定期試験 | | 秋期定期試験 |

到達目標

- ・中級レベルの商業・工業簿記を習得すること。

履修上の注意

- ・正課授業科目の「中級簿記」、「原価計算論Ⅰ」、「原価計算論Ⅱ」は必ず履修登録すること。
- ・エクステンションセンターの「日商簿記検定1・2級講座」を受講のこと。

予習復習

インプット学習はテキストで、アウトプット学習は問題集で行うこと。
毎日、3時間は簿記の問題集を練習すること。簿記学習の基本は、反復学習です。

評価方法

- ・毎回の授業参加と中間・定期試験で総合的に採点評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

開講日に公表します。

授業概要

テーマ：マーケティングとスポーツ

この演習は、マーケティングの基礎知識を学び、それを基に、マーケティングの新しい分野であるスポーツマーケティングをどのように捉え、どう考えるべきかを学びます。マーケティングでは、常に新しい考え方が提起されて今日まで発展してきましたが、そうした新しさはしばしば曖昧さをも含んでいます。この演習では、じっくりと腰を落ち着けて、ひとつひとつの概念を正確に理解し、マーケティングとスポーツマーケティングの様々な発想や理念、考え方を学び、皆さんの将来に役に立つ知識の習得に心がけたいと思います。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------------|
| 第 1 回 | 演習の概要 | 第 16 回 | 観るスポーツ (8)：スポーツチーム |
| 第 2 回 | 卒業論文の準備について | 第 17 回 | 観るスポーツ (9)：企業スポーツ |
| 第 3 回 | 情報メディアセンターの資料について | 第 18 回 | 観るスポーツ (10)：ブランド戦略 |
| 第 4 回 | 総論 (1)：スポーツマーケティングとは何か | 第 19 回 | 観るスポーツ (11)：消費者行動としてのファン |
| 第 5 回 | 総論 (2) マーケティングの理念 — その意義と限界 | 第 20 回 | 観るスポーツ (12)：パブリシティとスポーツジャーナリズム |
| 第 6 回 | 総論 (3)：戦略的発想法とはどういうことか | 第 21 回 | するスポーツ (1)：基本特徴 |
| 第 7 回 | 総論 (4)：管理と戦略との違いは何か | 第 22 回 | するスポーツ (2)：経験価値 |
| 第 8 回 | 総論 (5)：4Pという考え方 | 第 23 回 | するスポーツ (3)：スポーツ用品企業 |
| 第 9 回 | 観るスポーツ (1)：基本特徴 | 第 24 回 | するスポーツ (4)：営利と非営利 |
| 第 10 回 | 観るスポーツ (2)：メガスポーツイベント | 第 25 回 | するスポーツ (5)：フィットネスクラブ |
| 第 11 回 | 観るスポーツ (3)：メーカーとは | 第 26 回 | するスポーツ (6)：各種フィットネス |
| 第 12 回 | 観るスポーツ (4)：製品戦略 | 第 27 回 | するスポーツ (7)：公的施設 |
| 第 13 回 | 観るスポーツ (5)：競技場 | 第 28 回 | するスポーツ (8)：イベント会社 |
| 第 14 回 | 観るスポーツ (6)：スポンサーシップ | 第 29 回 | するスポーツ (9) ツーリズム |
| 第 15 回 | 観るスポーツ (7)：「待ち伏せ広告」 | 第 30 回 | 演習のまとめ |

到達目標

マーケティングとスポーツマーケティングの基本概念を理解し、自ら使えるようになること、また、スポーツマーケティングに関する日常生活の様々な出来事や報道などについて関心を持ち、自ら調べたり、考えたりすることができる態度を身につけることを到達目標としています。

履修上の注意

- ◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。
- ◎メールにレポートを添付して提出していただきます。メール提出のレポートは、原則、添削してお返しします。なお、昨今、スマホは使えるがメールは苦手という学生が少なくありませんが、各自、スマホだけでなく、パソコンのメールからファイルを添付してメールを送付できるようにしてください。
- ◎演習には必ず出席すること、また、30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされることに注意してください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度 (25%)、演習で出された課題の遂行の状況 (25%)、最終期末レポート (50%) によって評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。

参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください。

- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 — はじめて学ぶマーケティング基礎篇 —』大月書店、2003年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年

授業概要

本演習では、経済経営学部で学ぶ主な対象の1つである「企業」について、フィールドワークを交えながら指導する。まず、春期は主にフィールドワークを中心に指導する。前半は学生の目線から”働くこととは何か”, ”働く場所である企業とは何か”, ”なぜ経営理念が大切なのか”, いま企業が社会に求められている“CSR”や“SDGs”についてディスカッションし、併せて柴田ゼミの他学年の学生と共に複数の商店街等調査を通じて“何故企業にとってマーケティングが必要なのか”について学ぶ。最後は報告を兼ねたプレゼンテーションを他学年のゼミ生と共に行って頂く。秋期は、川口 Fes.等の地域ボランティアへの参加を通じ、企業が社会の中で本業以外にどのような活動をしているかを意識しながら、業界分析の方法や企業分析の方法を中心に指導する。一口に「業界」といっても様々な業界があり、それぞれの業界に多種多様な企業が存在する。そこで学生に業界分析や企業分析を行ってもらいながら、それぞれのポイントについて時事的内容を加えながら指導する。

授業計画

| | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|------------------|
| 第 1 回 | 春期の演習の概要 | 第 16 回 | 秋期演習の概要 |
| 第 2 回 | 学生間の自己紹介 | 第 17 回 | 業界分析・企業分析の方法 |
| 第 3 回 | 働くとは何か? | 第 18 回 | 分析する業界①ー自動車・機械 |
| 第 4 回 | 企業とは何か? 業界とは何か? | 第 19 回 | 分析する業界②ーエレクトロニクス |
| 第 5 回 | 企業に経営理念が必要な何故か: 講義 | 第 20 回 | 分析する業界③ー情報通信・IT |
| 第 6 回 | まとめ① | 第 21 回 | まとめ④ |
| 第 7 回 | 企業に経営理念が必要な何故か: 演習 | 第 22 回 | 分析する業界④ー銀行・証券・保険 |
| 第 8 回 | 企業の社会的責任(CSR)について: 講義 | 第 23 回 | 分析する業界⑤ー食品・農業 |
| 第 9 回 | 企業の社会的責任(CSR)について: 演習 | 第 24 回 | 分析する業界⑥ー生活用品 |
| 第 10 回 | まとめ② | 第 25 回 | 分析する業界⑦ー娯楽・エンタメ |
| 第 11 回 | SDGs について: 講義 | 第 26 回 | まとめ⑤ |
| 第 12 回 | SDGs について: 演習 | 第 27 回 | 分析する業界⑧ー建設・不動産 |
| 第 13 回 | まとめ③ | 第 28 回 | 分析する業界⑨ー運輸・物流 |
| 第 14 回 | 企業にマーケティングが必須な理由 | 第 29 回 | 分析する業界⑩ー流通・小売・外食 |
| 第 15 回 | フィールドワークの報告, 春期のまとめ (夏期課題) レポート提出 | 第 30 回 | まとめ⑥ |
| | | 第 31 回 | レポート提出 |

到達目標

春期はフィールドワークを通じて、秋期は地域ボランティアを通じて、多くの企業と接する機会を設ける。その上で、春期は現代の企業が社会に何を求められているのか、秋期は業界分析・企業分析の方法について、それぞれ実習や課題演習を通じて理解し、これらについて自分の言葉で表現できることを目標とする。

履修上の注意

- ①土日やGW、夏期休暇中に、学外授業としてフィールドワークや企業訪問等に参加してもらうことがある。
- ②川口 Fes.等のボランティアや自治体主催のビジネスコンテストの見学などに参加してもらうことがある。
- ③正当な理由がなく遅刻・欠席する学生には厳格に対応する。
- ④課題の〆切を守らない者については厳格に対応する。
- ⑤課題レポートのコピペには厳しく対処する。

予習復習

- ①レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。
- ②夏期・冬期休暇に課題あり(指定書籍各休暇1冊(計2冊)の読了とその感想)。
- ③その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

授業態度(50%), 提出課題の内容等(50%)により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。
(参考図書) 柴田仁夫 [2017] 『実践の場における経営理念の浸透』 創成社 (3400 円, 税別)

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

基礎演習では、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経営学と日本経済の知識をさらに発展させることを目的としています。前期は日本経済の特質を財政、貿易、金融等について考察し、後期は経営学の知識を、基本文献に基づいて確固たるものにします。前期、後期の最終講義は演習のまとめを行います。経理業務を中心に経営実務に従事されている外部講師をお招きすることにより、演習のまとめに代える場合があります。

授業計画

| | | | |
|--------|--------------------------|--------|----------|
| 第 1 回 | ガイダンス ー目的、方法、評価等ー | 第 16 回 | 組織の構成 |
| 第 2 回 | 日本の財政(1)ー財政学の基本概念と財政の役割ー | 第 17 回 | 組織の設計 |
| 第 3 回 | 日本の財政(2) ー財政の仕組みー | 第 18 回 | 企業統治 |
| 第 4 回 | 日本の財政(3) ー財政の歴史ー | 第 19 回 | 資本の構造 |
| 第 5 回 | 日本の貿易(1) ー貿易論の基礎ー | 第 20 回 | 雇用の構造 |
| 第 6 回 | 日本の貿易(2) ー自由貿易原則と制度対応ー | 第 21 回 | 経営戦略の基礎 |
| 第 7 回 | 日本と国際金融(1) ー外国為替市場ー | 第 22 回 | 競争と差別化 |
| 第 8 回 | 日本と国際金融(2) ー国際通貨体制ー | 第 23 回 | 経営資源の配分 |
| 第 9 回 | 日本と国際金融(3) ー国際金融実務ー | 第 24 回 | 人材マネジメント |
| 第 10 回 | 日本の農業 ー日本農業の特徴と農業政策ー | 第 25 回 | インセンティブ |
| 第 11 回 | 日本の地域経済(1) ー地域経済学の基礎ー | 第 26 回 | 計画と管理 |
| 第 12 回 | 日本の地域経済(2) ー地域経済の活性化ー | 第 27 回 | 経営理念 |
| 第 13 回 | 日本の環境問題 ー環境経済学の基礎ー | 第 28 回 | リーダーシップ |
| 第 14 回 | 日本の社会保障 ー社会保障制度の概要ー | 第 29 回 | 経営者の職能 |
| 第 15 回 | 演習のまとめ | 第 30 回 | 演習のまとめ |

到達目標

本演習の目標は、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経済学・経営学の知識をさらに深めることを目的とします。経済学の基礎や日本経済の特質を踏まえて経営学を体系的に学び、専門演習に向けた確固たる基礎学力を身につけることが課題となります。

履修上の注意

演習は講義を中心に進め、テーマごとに議論する方式を採用します。履修者は積極的に議論に参加することが求められます。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。

予習復習

前期、後期ともに復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。

評価方法

前期末、後期末のテストあるいはレポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

【参考資料】伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2003年)。